

令和5年度 行政視察レポート

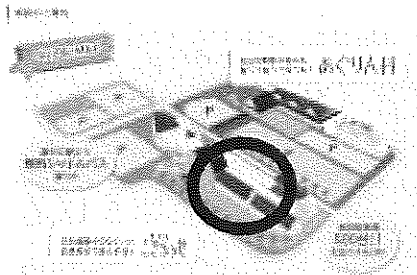
産業厚生委員会 辻本 貴志

令和5年10月11日（水）愛知県長久手市

※推定人口 61,131人（2023年8月1日） 名古屋市に隣接

場所：長久手田園バレー交流施設あぐりん村

長久手市は、西側に住宅地や商業施設が多く立ち並び、東側には豊かな緑が残されています。自然と街が共存している点が長久手市が人気を集める理由の1つです。また自動車産業で有名な豊田市に近いので、ベッドタウンとしても人気を集めているエリアです。



藤が丘駅より無料の送迎バスがあります。

○のところには長久手市障がい者基幹相談支援センター、福祉の家もあります。



駐車場も広く、無料バスの送迎もありますが、シェアサイクルで来ることも可能です。



あぐりん村の外の広場です。ここでテントを広げたりしてイベントなどもするそうです。



商品のバーコードをかざすと生産者の情報、農薬の使用状況などが表示されるそうです。

もみつきのみは注文を受けてから精米されるそうです。

長久手市が田園バレー構想の指針の1つである「ふれあい・交流・体験の場」として、平成19年4月に開設した「長久手田園バレー交流施設めぐりん村」を視察しました。

都市近郊農業の活性化や地産地消、都市農業交流の推進を目的に、農産物直売所、パン工房などを備えた交流拠点施設として整備され、農を通じて誰もが交流し、憩い、ふれあい、楽しめる場を提供していました。さらに長久手市障がい者基幹相談支援センター、福祉の家も併設しており、来所する方が増えそうな印象をもちました。また、来所する交通手段も自家用車、藤が丘駅からの無料のバス、シェアサイクルといった多くの来場手段があることは来所する人の増加につながると考えました。

令和5年10月12日（木）三重県いなべ市

※推定人口 42,506人（2023年8月1日）

場所：いなべ市役所

青川峡キャンプパーク

Nordisk Hygge Circles UGAKE

いなべ市は古くから純農村として繁栄した地域で、市内には風光明媚な観光スポットが点在しています。市域の北部や西部は、山岳地帯です。「藤原岳」や「竜ヶ岳」などの山々がそびえ、登山やハイキングを楽しめます。また、市域の北端にあるいなべ市農業公園も人気の観光スポットです。

以下に示すが、いなべ市をどのようにデザインするかが明確であった。

①いなべブランドの創設

いなべ市にないものを探すのではなく、“あるもの探し”を行ったとのこと。これによって生まれたのが、全国に誇れる行政サービス「いなべブランド事業」です。安心して住み続けられるまちづくりを進めるためには、市の職員一人一人が社会の実状を見極め、最善の行政サービスを提供していく必要があります。いなべ市は高水準で市として誇れる行政サービスを「いなべブランド」と称し、職員全員がこのいなべブランドの認定を目指し、業務改善に取り組んでいます。この職員の業務改善への挑戦によって生まれたいなべブランドを冊子にまとめ、いなべの強みとして情報発信していくことで、効果的に市民の満足度及び市内外のいなべ市に対するイメージ向上を図り、高い評価をいただくことで、さらなる業務改善意識の醸成につなげています。このいなべブランドを創出することで生まれたこの好循環によりいなべの魅力を作り、育てていき、まちづくりを行っているようです。

②いなべ市の営業戦略

いなべ市は名古屋市から1時間程度の立地の良い場所にありながら、1,000メートル級の山々が連なる、鈴鹿山脈や全国的にも人気が高い青川峡キャンプパーク、ロードバイクで走りやすい道路環境など、アウトドアフィールドとしての魅力が「売り」である事は市内外の方が認めるところだそうです。このアウトドアフィールドを生かしたプロモーションの展開がいなべ市の経営、営業戦略の特徴の1つです。また営業戦略のもう一つの特徴として「誰に売するのか」を明確にしているところでした。いなべ市からターゲットエリアを半径30キロ（車で1時間以内）の圏域に設定してこの圏域に住む約360万人のうち、アウトドア好きの20～30歳代の女性とロードバイク付きの男女メインターゲットに設定したなど「誰に売するのか」を明確にして営業していました。

③ シティプロモーション

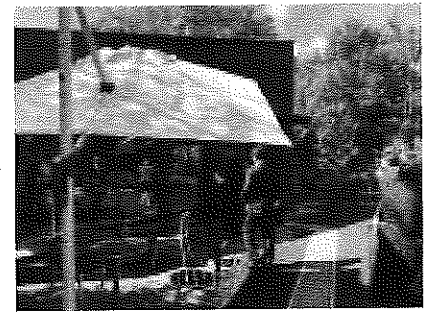
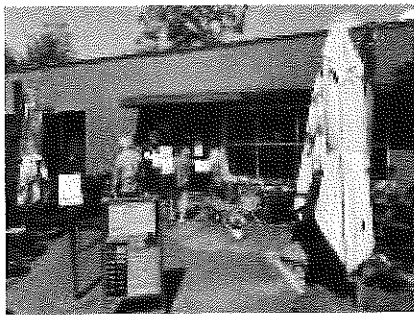
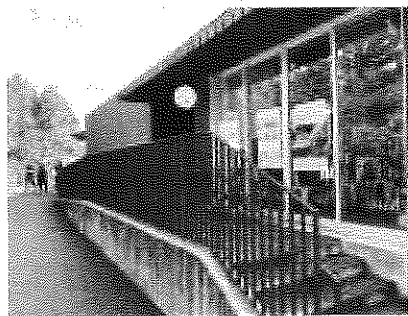
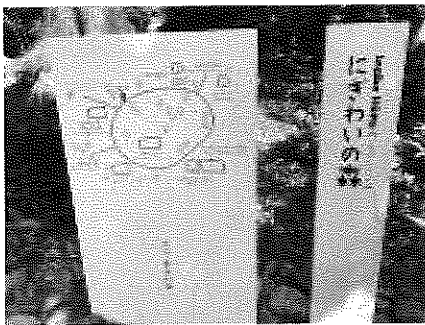
ターゲットエリア？

「住んでいいなー！来ていいなー！」のまちづくりをプロモーションするのは、庁内連携はもちろんのこと、市民NPOを始め、高校・大学、企業など多様な主体との連携共同が必要です。それを形にした一つが、「いなべ、暮らしを旅する」です。本誌に住まう人々の暮らしぶりや息づかい、店を営む店主の思いが綴られ、本誌を周遊するきっかけとなる冊子「いなべ暮らしを旅する」を制作したそうです。市民とともに制作したこの冊子は、「思わず他人に自慢したくなる一冊」と評価され、市民自らが営業マンとなり配布すると言う異例のヒット作となったそうです。

現地に視察に行き感じたのはプレゼンする市の職員が生き生きとしてプレゼンしていました。この背景には「いなべブランド」を自分の手で創ろう、育てていこう、職員全員がこのいなべブランドの認定を目指して取り組んでいることを感じました。このような事業展開を枕崎市職員でも行えるのではないかと考えました。

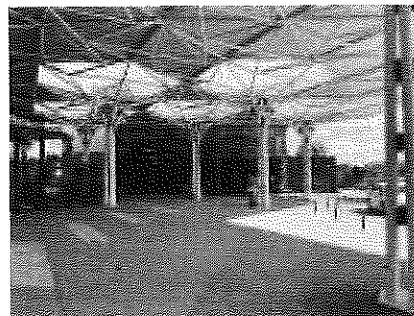
○ 一般社団法人グリーンクリエイティブいなべが庁舎内に入り、【にぎわいの森】【3つのプロジェクト】（①キャンペーン事業、②ローカルセンスショップ事業、③生業事業）を展開しています。

↓【にぎわいの森】の写真

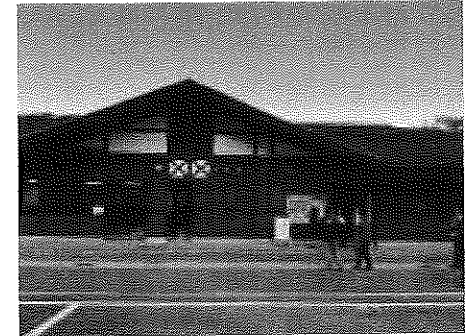
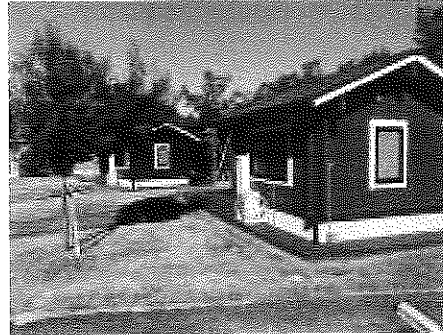
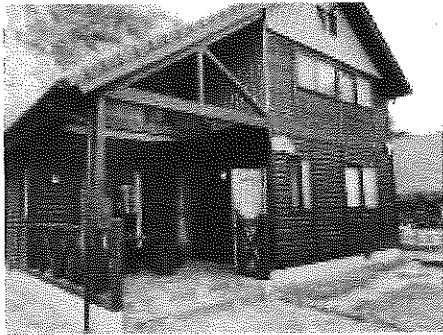
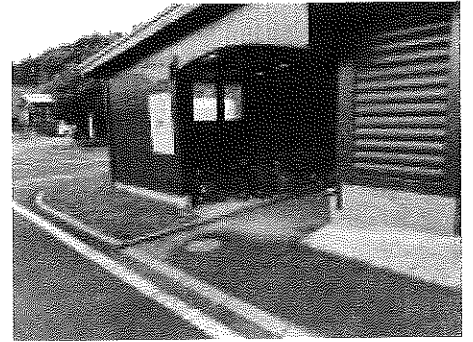
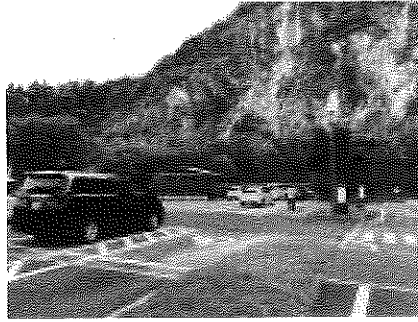
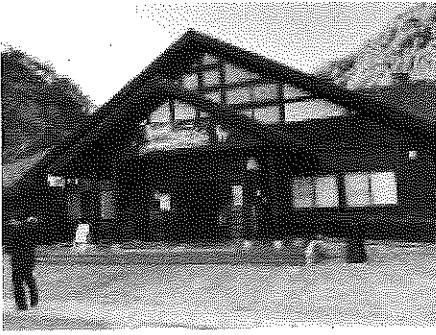


↓庁舎と【にぎわいの森】の間にあるスペース。
ここでキッチンカーなども入ってイベントが開催できる。

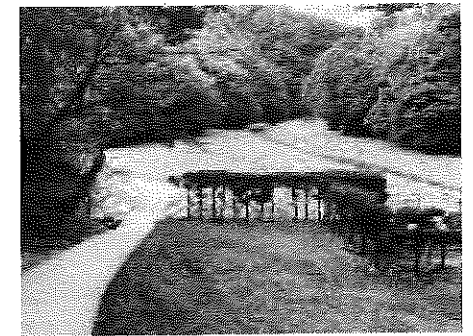
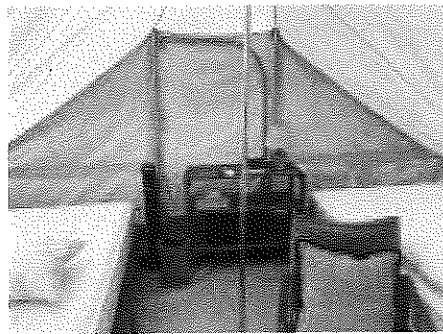
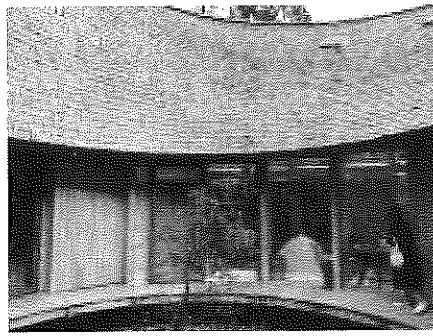
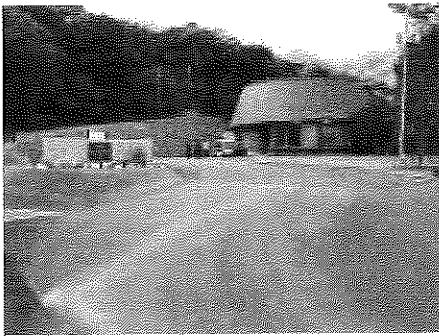
↓議場傍聴席の1部に親子で入れるスペースあり



↓青川峡キャンプパーク



↓Nordisk Hygge Circles UGAKE



令和5年10月13日（金）愛知県常滑市

※推定人口 58,472人（2023年3月31日）

場所：常滑市役所

愛知県常滑市は千年の伝統を誇り、また日本遺産に認定された日本六古窯の一産地として、常滑焼が全国的に有名で、急須や招き猫の生産は日本一です。また西には伊勢湾があり、三重県の山々や中部国際空港に住む沈む美しい夕日が見られます。

常滑市長の政策の1丁目1番地は『子育て支援』ということであり、「福祉部子育て支援課」もありました。子育てに喜びを感じ、安心して子供を産み育てられる環境作りを目指し、子育ての総合的な支援を図るため、子育て総合支援センターを設立し、子育て環境整備するとともに、児童福祉の向上を図ることを目的としているそうです。

（1）支援内容

ことはあとルームの開放（交流スペースの提供）、子育て相談、発達相談（言語聴覚士）、とこはあと相談（臨床心理士）、子育て情報の提供、子育てサークル、ボランティアの育成・支援、講座の開講

（2）地域子育て支援センター計5カ所設置

講座：子どもとの接し方のコツを知ろう～大人が学ぶペアレントトレーニング～を開催していました。対象者を発達に特性のある子ども（年少～年長）の家族としており、大人が学ぶ機会を準備しているのは印象的でした。しかし、講座の参加者はすべて母親が参加、父親の参加はないのが現状とのことで父親の育児参加は課題と感じました。枕崎には『子育てふれあいグループ自然花』があります。講座だけではなく、家族での体験活動などを融合させるともっといい家族の学びにつながるのではないかと考えました。

↓とこなめ市民交流センター内 子育て総合支援センター



↓市役所での事業説明の様子

